

建築／文化人類学 ご担当者さま

ヨコとタテの建築論

(2023 年 1 月中旬刊行予定)

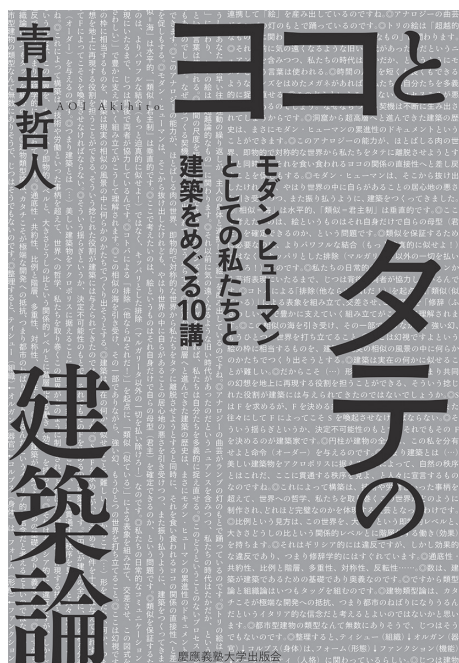
モダン・ヒューマンとしての私たちと建築をめぐる 10 講

青井哲人 (明治大学理工学部建築学科教授)[著]

四六判並製／312 頁 税込予価 2,970 円 ISBN978-4-7664-2860-5 C3052

ココに注目！

- ・ 建築学界気鋭の著者による、待望の新刊！
- ・ 「建築」を人類史的スケールで捉え直し、その本質に迫る！
- ・ 講義形式で読みやすく、参考文献も充実の入門書。



書影イメージ

「建築家は家屋の海原の中に聖堂をつくる。ヨコのひろがりの内に、タテの力が働く場をつくり出そうとするのです——」(本書より)。

建築をイチから学び直したい人へ。人類史的スケールでその成り立ちを捉え直す出色の入門書。相似を成す「建物」の広がり（ヨコ）から唯一無二の「建築」（タテ）を立ち上げるための、広範なりファレンスと巧みな比喻で織り上げる思考のタペストリー。東京芸大での白熱講義を書籍化。

対象 (建築学を専攻する) 学生／一般 (文化人類学に関心のある層)

類書 【建築】 隈研吾『点・線・面』(岩波書店)
【文化人類学】 ティム・インゴルド『メイキング』(左右社)

内容見本、注文書を裏面に掲載！ ぜひご確認ください！

第1講

Lecture 1: Compatible and Progressive: Awkwardness in Modern Human

互換と累進——モダン・ヒューマン、その力のきこえ

参考文献

港千尋『洞窟へ——心とイメージのアルケオロジ』(せりか書房、2001年)
五十嵐ジャンヌ『なんで洞窟に壁画を描いたの?——美術のはじまりを探る旅』(神泉社、2021年)
島泰三『はだかの起原——不適者は生きのびる』(木楽堂、2004年/講談社学術文庫、2018年)
中沢新一『熊から王へ カイエ・ソバージュII』(講談社選書メチエ、2002年)

1 アナロジの曲芸

異なるカテゴリーに橋をかける

さつそくですが、旧石器時代の洞窟壁画の画家たちに登場願ひましょう。近年、興味深い洞窟の発

【図1】ラスコーの洞窟壁画「雄牛の間」

見が相次いでいますが、ここでは誰もが知るラスコーを例にとります。私たちと同じホモ・サピエンスが約2万年前に制作したものです。

ウンベルト・エーコはこう言っています。「当時人びとがそれを称賛するためにそこに通っていたのか、洞窟の暗闇の中でそつとおかれたのか、作者本人が、上手に描けたものだと思画自賛していたかどうかは分からない」(『ウンベルト・エーコの世界文明講義 和田孝彦監訳、河出書房新社、2018年』)。しかしそれでも、あれは少なくとも生物学的には私たちと同じサピエンスたちが描いた絵です。少なくとも彼らが絵を描くときに働いていた基本的な認知的なメカニズムは、私たちと変わりません。

たとえば「雄牛の広間」として知られるホール状空間に湧き上がり溢れ出るようなあの動物たちの絵(図1)。物質的な素材として見るなら、それらはカルシウム質を多く含んだ岩盤と、諸種の鉱物と、そして木を燃やしてできた炭でしかありません。しかし、それらはそれ以上のものであったことは疑いようがありません。つまり、それを描いた者たちの目には、こうした素材の集まりが、たとえばバイソンに他ならなかったはずです。今日の私たちにもそのように見え、それは否定しがたいのです。彼らも私たちも同じように、集合A「岩盤と鉱物と炭」を、集合B「バイソンの群れ」につなげることができるのです。

このアクロパティックな芸当を「アナロジ analogy」と呼びます。ふつう「類推」と訳し、特定の対象Aにある何らかの情報を、別の対

第1講 互換と累進

005

第1部 ココとタタ

004

第1部 ヨコとタテ

004



は誰もが知ラスコを例にとります。私たちと同じホモ・サピエン
です。

言っています。「当時人びとがそれを称賛するためにそこに通つてい
たとしておかれたのか、作者本人が、上手に描けたものだと自画自賛して
いた」と同じ基本的な認知的なメカニズムは、私たちと変わりません。

たとえば「雄牛の広間」として知られるホール状空間に湧き上がり
溢れ出るようなあの動物たちの絵(図)。物質的な素材として見るな
ら、それらはカールシュム質を多く含んだ岩盤と、諸種の鉱物と、そし
て木を燃やしてできた炭でしかありません。しかし、それらはそれ以
上のものだったことは疑いようがありません。つまり、それを描いた
者たちの目的には、こうした素材の集まりが、たとえばバイソンに他な
らなかつたはずです。今日の私たちにもそのように見え、それは否定
しがたいのです。彼らも私たちも同じように、集合A「岩盤と鉱物と
炭」を、集合B「バイソンの群れ」につなげることができるのです。

このアクロバティックな芸当を「アナロジー analogy」と呼びます。
ぶつう「類推」と訳し、特定の対象Aにある何らかの情報を、別の対

異なるカテゴリーに橋をかける
さつそくですが、旧石器時代の洞窟壁画の画家たちに登場願ひましょう。近年、興味深い洞窟の発

参考文獻

港干尋 洞窟へー心とイメージのアルファオロジ』(せりふ書房 2000年)

五十嵐 ヤンス「なんで洞窟に壁画を描いたの?ー美術のはじまを探索の旅」(神泉社 2021年)

島泰三 はだかの起原ー不遇者へ生きのびる」(木東堂 2004年)『講談社学術文庫 2018年』

中沢新一 「熊かた王へ カイエ・ソバージュⅡ」(『講談社選書メチエ、2002年』)

互換と累進

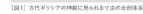
——モダン・ヒューマン、その力のきこちなさ

第 1 講

Lecture 1: Compatible and Progressive: Awkwardness in Modern Human

〔図3〕 ファン・デ・ワアネスの
《神祇の聖ステファノ》（1565年）

聖ステファノの幻視

[illegible]

と言ったのです。近代的な意識の概念に親しむ人には妙に見えます。そして「賢明な人は妙に見えます。出典もよくても、教えることに失敗したとしても、その教養の豊かなのは」と指摘されたことなのです。大抵そんな外れにはなでしよう。しかし、古代ギリシア人の「数」はちつと現代の数学の「数」を語っている。なんと、古代ギリシア人の「数」には「1」が含まれていなかったのです。

それは古代ギリシア人にとって「1」があまりにも特別だったことを意味しています。おかうかていうだけでは、すべての「数」に対して単位「デューモ」の資格をあたへる。「数」は「1」の集まり

新刊委託

★1つで「500部」を表します